

第3回福知山市広報戦略検討委員会

日時：令和6年12月25日（水）

午後3時00分～

場所：市民交流プラザふくちやま

アトリエ（4階）

次第

1 開会

2 事務局説明

（1）第2回委員会について

（2）提言案

3 提言案の検討

4 閉会

第2回福知山市広報戦略検討委員会報告

1. 戦略、方向性、観点（広報・広聴の目標にかかわるもの）

市民とのコミュニケーションの重要性

- ・市民との対話を中心に進めるべきという意見
- ・外部向け広報（福知山市の良さを伝える）は後回しにする方針

地域活性化と情報発信

- ・福知山の魅力を広めるために都市部向けに情報発信が重要
- ・学生が福知山の良さを他地域に伝える可能性について
- ・市民視点でわかりやすい情報発信が求められる

市長の「顔を見せる」

- ・市長が積極的に情報を発信し、市民に正確な情報を伝える仕組み作りが必要
- ・市長が「顔を見せる」ことの重要性が強調され、メッセージ伝達の方法を再検討する必要あり

広報活動の目標設定と評価

- ・数値目標を設定し、その達成度合いを進捗として測るべき
- ・数字を追いながら進め、戦略的目標を策定することが重要
- ・市民参加の促進
- ・市民が情報を受け取って反応することで、参加意識が高まる
- ・気軽に参加できる環境作りが重要

2. 戦術、具体的な広報ツール、戦略を実現するための手段

情報伝達的手段と改善

- ・回覧板やホームページを活用し、情報伝達の方法を改善する必要
- ・「誘導タイトル」を設け、コンテンツ整理とピンポイント伝達を提案
- ・市長の定期的なメッセージ発信の重要性
- ・YouTube や地元新聞、テレビ出演など、多様な発信方法の活用

学生を地域活動の「ハブ」として活用

- ・学生を地域の「ハブ」として地域活動に従事させ、問題解決に貢献する仕組みの構築
- ・大学との連携で学生が地域課題に取り組む仕組み作り
- ・学生の報酬制度の導入が必要（地域活動への参加に対して報酬を支払うことが求められている）

市役所内の協力と部署間連携

- ・市役所全体で協力し、情報発信の効果を上げるために部署間連携を強化
- ・他自治体（例：西脇知事）の事例を参考に、市長や担当者が地域を訪れ、市民の声を聞くことが重要

短期的広報戦術

- ・市民参加しやすいイベントや情報を前面に出す（市長定例会見、出前講座など）

- ・定期的でない手段（臨時広報手段）を活用して目立たせる方法

広報活動の進捗管理

- ・進捗を数値化し、目標達成度を管理
- ・目標設定と進捗管理を通じて広報活動の効果を確認する

3. その他の意見

広報活動の評価と期待

- ・プロモーション担当者のリーダーシップが高く評価され、今後も活躍が期待される
- ・広報副長が広報誌をまとめて発信することで、市民の意識や参加率が向上することが期待される

情報共有と改善策

- ・市民の関心を引く方法としてアンケート結果を活用
- ・市民が情報を受け取れていない現状に対する改善策の必要性
- ・横の繋がりを活用し、より広範囲で情報共有する必要性

機構改革と人事体制

- ・機構改革の利点を盛り込み、注力すべき部分に焦点をあてて進めるべき
- ・人事体制については今後の会議で具体案を決定予定

市民の意見を反映

- ・市民の意見を反映させるため、アンケート結果を重視するべき
- ・市民にわかりやすく魅力的な広報を行うために、デジタル媒体（ホームページ、YouTube など）の活用が提案された